

Vol. 160

紀元 2683 年

令和 5 年

新春号

宮崎神宮社務所

宮崎神宮

養正

ようせい

正



宮崎神宮
神武

ようせい
「養正」とは

神日本磐余彦天皇が第一代の天皇に即位される際の
ご聖勅「上八則^{すなは}ち乾靈^{あまつかみ}ノ國ヲ授ケタマヒシ^{さす}徳ニ答へ、下八
則^{すなは}ち皇孫ノ正^{すめみま}ヲ養ヒタマヒシ^{ただしきみち}心ヲ弘^{やしな}メム」からいただいた
由緒ある名称です。

年頭の「ごあいさつ」

宮司 本部 雅 裕

輝かしく皇紀二六八三年の歳旦にあたり、聖上の弥栄、皇室のご隆昌を心から乞祈奉ります。また、日頃宮崎神宮にご参拝くださいます氏子崇敬者の皆さまには、さらなるご健勝とご多幸を祈念申しあげます。

さて当神宮は、のちに第一代天皇になられます、神日本磐余彦天皇をお祀りしてをりまします。天皇は、皇太子の御時「宮崎宮」をお発ちになり「神武東遷」ののち、橿原宮で天皇の御位にお即き遊ばされます。このことを『日本書紀』では「辛酉年の春正月の庚辰の朔に、天皇、橿原宮に即帝位す。是歳を天皇の元年とす。」(岩波文庫)と記してあります。つまり、神日本磐余彦天皇の御即位が我が国の誕生であり、このときを紀元とする「皇紀」の始まりだと説明してあります。

また、今年令和五年は、今上陛下が、神武天皇から数へて一二六代目に当たる天皇の御位に御即位されて五年を現します。これを「元号」といいます。これも、「皇紀」とともに我が国古来の大切な文化であります。「神武さま」をお祀りする当神宮だからこそ、この

皇紀と元号はさらに世の人びとにご理解いただくべく、教化の努力を続けていかなければなりません。キリスト誕生を紀元とする「西暦」とは、その意を異にすることにもご理解いただきたいと存じます。

さて、秋の日向路を彩る「神武さま」は昨年三年ぶりに開催できました。まさにコロナ禍の間隙を縫って、どうにか斎行できたと感謝してあります。沿道ではご鳳輦に向かったたくさんの方々がお詣りをされ、シャンシャン馬行列を始めとする神賑行事をお楽しみいただきました。宮崎神宮はこの御神幸祭を始め、年間七十数回の恒例の祭祀や、皆さま方からご要望のある年中行事や人生儀礼のご祈願等を執り行つてあります。

年頭にあたり所信の一端を述べ、今年も宮崎神宮の伝統ある祭祀を厳修して、竹の園生のご繁栄を祈り、氏子崇敬者のお心に寄り添って、職員一同、神明奉仕に努めてまいります。

どうぞ、ご家族お揃ひでご参拝くださいますやうお願い申し上げます。



御神幸祭大淀御旅所御発輦祭 (令和4年10月30日)



新年のごあいさつ



講長 西尾武彦

新年あけましておめでとございませう。今年も干支のうさぎに因んで、飛躍の年となるのでしょうか。大きく期待するばかりであります。

さて、昨年はようやく様々なイベントも復活するなど、世の中に活気が戻りつつあるように感じました。宮崎神宮におきましても、三年振りに神武大祭が開催されましたことは、何よりの喜びでありました。私をはじめ講員も御神幸行列に参加させていただきましたが、沿道の多くの方々の笑顔から、皆様がこのお祭りを心待ちにしていたことがうかがい知れました。

しかしながら、養正講の活動の柱である皇居勤労奉仕団については、内定をいただいておりますが、残念ながら中止となりました。参加資格の年齢制限により、今後の奉仕が叶わなくなった皆様には大変申し訳なく思います。

なお、同事業は、令和元年を最後にコロナ禍により中止が続いております。今年こそはと願いを込めて、元旦に身を清めて奉仕団の申し込みを行いますのでどうぞご期待ください。

また、その他の事業に関しましても、祭典直会時などに直接、活動の希望や企画、提案などをご教授いただきたく存じます。養正講の活性化のために、遠慮なくお申し付けいただければ幸甚に存じます。

結びに、本年が皆様方にとりまして、幸多き年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



御神幸祭にて



令和5年度皇居勤労奉仕団のご案内

- ◆日程 令和5年11月を予定（4泊5日）
※6月中に決定。抽選により変更あり。
- ◆企画手配 (株)日本内外旅行
- ◆募集人数 30名を予定（定員に達し次第締切）
- ◆参加資格 満75歳までの神武養正講社講員
- ◆経費概算 一人当たり125,000円（30名の場合）
※奉仕日1ヶ月前までキャンセル料不要

お申し込みにあたって

- ①令和5年5月15日（月）締切
- ②宮崎神宮までお越しの上、お申し込み下さい。

お問い合わせ
宮崎神宮神武養正講社事務局
電話 0985(27)4004
担当 串間、出光

養正講の詳細は宮崎神宮ホームページに掲載しています。ぜひご入講ください。

お伊勢さまのお神札をお祀りしませう。

お伊勢さまのお神札は、
節目ごとの様々なお祭りを経て、
清浄に清浄を重ねて奉製されます。

大麻用材伐始祭



内宮宇治橋の南西にある丸山祭場で行われます。遙かな山々に向かって斧を入れる所作を行ひ、お神札用の木材が無事に調達できるやう祈ります。

大麻曆奉製始祭



「天照皇大神宮」の宮号が浄書された銘紙に「皇大神宮御璽」の朱印が捺され、その年のお神札の奉製始とするお祭りです。なほ、年末には大麻曆奉製終了祭が行われます。

神宮大麻曆頒布始祭



全国へ頒布されるにあたり、内宮神楽殿にて行われます。お神札が各神社庁長へ託され、その後各県さらに各地域でも同様の祭典を行ひ、皆様へ授与されます。

大麻修祓



前夜からお籠もりした神職がお神札を祓ひ清め、神威の付与を祈るお祭りです。丁寧な祈りを受けた大御神の御神威が厳格に清められたお神札に付与されます。

- ・大大麻 2,000 円
- ・中大大麻 1,400 円
- ・小大大麻 1,000 円
- ・神宮曆 200 円
- ・どうぞ御札所にてお受けください。

写真提供：神宮司庁

神武の里 高原町 「日本発祥地まつり」



天孫降臨の地「高千穂峯」

当宮ご祭神神日本磐余彦天皇ご誕生の地と伝はる西諸県郡高原町では、長年に亘り町を盛り上げてゐた「神武の里たかはる秋まつり」と「日本発祥地まつり」を一本化し、新しいまつりを開催されました。

このおまつりは、先人たちの意思を受け継ぎ、心新たに次世代へ繋げるべく、「神武天皇ご誕生の地」、「天孫降臨伝説の地」としての誇りを胸に、郷土愛の醸成を図ることを目的とされ、毎年宮崎神宮御神幸祭の一週間前に開催されることとなっております。

当日は、高原町総合運動公園を会場として様々な催しが行はれ、フィナーレには花火三千発が打ち上げられるなど、終日大変な賑はひを呈しました。夕刻には御神幸行列も執り行はれ、当宮との連携を密にする観点から、同会場に奉安された御鳳輦前にて宮崎神宮氏子青年獅子八頭による舞、さらに神職、巫女も雅楽や悠久の舞を奉奏させていただきました。

なほ、まつり当日の令和四年十月二十三日は、奇しくも狭野尊（神武天皇御幼名）をお祀りする宮崎神宮別宮であった狭野神社（高原町狭野鎮座）の例祭日でありました。まさに新しいまつりの第一歩としてのみならず、近年の災害やコロナ禍を乗り越えやうとされる町民の思ひを一つにするに相応しい日となったことと存じます。

今後とも本まつりが末永く賑々しく執り行はれることはもとより、神武天皇がご幼少時に駆け巡られた高千穂峯を仰ぐ自然豊かな山間の町が、神武さまをお慕ひ申し上げる町民の心とともに、益々発展されますことをご祈念申し上げます。



御神幸行列。御鳳輦は大正四年に御大典奉祝事業の一環として奉製されました。

初詣はおそろひで神武さまへ

新しい一年がはじまり、気持ちも新たに過ごされてゐることかと存じます。時節柄、不安になるやうな情報を耳にすることも多い世の中ですが、ぜひ当宮はもとより、お住まひの地域の神社である氏神さまにもお参りされ、御神徳をいただいで、幸多き一年をお過ごしになりますやうご祈念申し上げます。なほ、コロナ禍より徐々に通常を取り戻しつつありますが、神社では引き続き感染症対策を講じてをります。皆様におかれましても、ご参拝の際にはマスクの着用等、引き続き感染症対策に十分に気を付けていただきますやうお願い申し上げます。

節目のお被ひをしませう

・厄 祓 古来人生の大きな変はり目を厄年といひます。



・年祝ひ（長寿祝ひ） 命の営みを神様に奉告、感謝しませう。

男 性		女 性	
前厄	二十四歳 平成十二年生	前厄	十八歳 平成十八年生
大厄	二十五歳 平成十一年生	大厄	十九歳 平成十七年生
後厄	二十六歳 平成十年生	後厄	二十歳 平成十六年生
前厄	四十一歳 昭和五十八年生	前厄	三十二歳 平成四年生
大厄	四十二歳 昭和五十七年生	大厄	三十三歳 平成三年生
後厄	四十三歳 昭和五十六年生	後厄	三十四歳 平成二年生
前厄	六十歳 昭和三十九年生	前厄	三十六歳 昭和六十三年生
大厄	六十一歳 昭和三十八年生	大厄	三十七歳 昭和六十二年生
後厄	六十二歳 昭和三十七年生	後厄	三十八歳 昭和六十一年生

還暦	六十一歳 昭和三十八年生	米寿	八十八歳 昭和十一年生
古稀	七十歳 昭和二十九年生	卒寿	九十歳 昭和九年生
喜寿	七十七歳 昭和二十二年生	白寿	九十九歳 大正十四年生
傘寿	八十歳 昭和十九年生	百寿	百歳 大正十三年生
半寿	八十一歳 昭和十八年生	紀寿	百歳

建国をしのび国のはじまりをお祝ひませう

二月十一日は我が国の建国記念の日です。この日は当宮で祭神日本磐余彦天皇が橿原の宮にて初代天皇に即位された日で、本年は建国より二六八三年にあたります。祭典をはじめ各種催事も執り行はれますので、どうぞお越しください。

◆ 紀元祭 午前十時 於宮崎神宮ご社殿

建国の御聖業をしのび、皇室の繁栄と国の益々の発展を祈ります。

◆ 第四十七回建国記念の日奉祝市民マラソン大会

午前九時十五分〜午後一時 於境内内及び外周

例年約五百名にご参加いただき盛大に開催されます。本年はコロナ禍により三年振りの開催です。詳細はホームページをご覧ください。

◆ みやざきの神話伝承まつり 午前十時〜午後六時 於東神苑

宮崎市の主催により、宮崎の神話にまつわるステージや体験を通して、神武天皇が即位されるまでの「神武東遷」のストーリーを楽しみながら学んでいただけるイベントです。詳細はホームページをご覧ください。

みやざきの神話伝承まつり
2023.2.11 SAT 会場:宮崎神宮東神苑 10:00~18:00
楽しい体験を通して神話を知ろう!

宮崎ぎょうざフェス
同時開催!
神話が学べる
楽しい体験やゲーム
ステージイベントが満載!

ぜんざいのふるまいもあるよ
天狗神楽七んかいサークル



自動車祓殿御鎮座記念祭

神日本磐余彦天皇（神武天皇）と佐田彦大神（猿田彦大神）をお祀りする自動車祓殿は、昭和42年10月23日に竣工しました。竣工より55周年の節目にあたる令和4年、改めて皆様方の交通安全並びに関係各社一層のご繁栄をご祈念し、初めて斎行致しました。

※自動車祓殿については本誌145号をご参照ください。

◆ 祭典・奉納行事

- 七月 十日 除蝗祈願祭
- 七月 二十四日 撰社夏祭 子供神輿渡御（二十五日まで）
- 八月 四日 末社夏祭本祭 子供神輿渡御中止
- 八月 二十五日 風鎮祭
- 九月 十五日 敬老祭
- 九月 十六日 天皇皇后両陛下英吉利国御渡航安泰祈願祭
- 九月 二十一日 天皇皇后両陛下英吉利国御渡航還幸啓奉告祭
- 九月 二十三日 秋季皇霊祭遙拝 秋分祭併風鎮満願祭
- 十月 五日 御東遷記念祭
- 十月 八日 御神田拔穂祭
- 十月 十四日 御衣祭 ※本年より復興する
- 十月 十七日 神嘗祭遙拝 神嘗奉祝祭
- 十月 二十三日 自動車祓殿御鎮座記念祭 ※本年より斎行する
- 十月 二十五日 第五十四回例祭奉納剣道大会 前夜祭



御神幸祭（神武さま）

令和元年以来3年振りに御神幸祭を斎行致しました。沿道には第1日約80,000人、第2日約60,000人、前回より約30,000人増の計140,000人が訪れました。大淀御旅所では、本誌5頁記載のおまつりのご縁により、国指定重要無形文化財の狭野神楽の奉納、また地域住民による神賑行事が執り行はれました。

- 十月 二十六日 例祭 ※献幣使 鶴戸神宮宮司 黒岩昭彦氏
- 十月 二十七日 例祭奉納四半の大会
- 十月 二十七日 撰末社例祭
- 十月 二十九日 御神幸祭 ※大淀御旅所往復（三十日まで）
- 十月 三十一日 陳謝祭
- 十一月 三日 明治祭 大的式奉納（九州菱友会宮崎市支部）
- 十一月 十五日 七五三詣祭
- 十一月 二十三日 新嘗祭
- 十一月 二十四日 撰末社新嘗祭
- 十二月 二十五日 本殿清掃奉告祭 大正天皇祭遙拝
- 十二月 三十一日 古神符焼納祭 大祓 除夜祭 撰末社歳末祭
- 毎月 三日 月次祭（十一月を除く）
- 毎月 十五日 講社月次祭

※各祭典に併せてコロナウイルス鎮静祈願詞奏上
 ※事由の記載なき各種中止行事はコロナ禍によるもの
 ※コロナ禍により折詰、撤下品等をお渡しし直会とする

◆正式参拝・団体祈願等◆

令和四年

六月 十七日 宮崎県警察機動隊柔道部・剣道部必勝祈願

二十日 エネルギア(株)安全祈願

二十二日 松下新平氏参議院議員選挙必勝祈願

二十五日 宮崎日本大学中学校サッカー部必勝祈願

二十八日 西松建設(株)安全祈願

七月 一日 相馬工業(株)社内安全祈願

九州電力(株)宮崎営業所安全祈願

九州電力送配電(株)宮崎支社安全祈願

二日 第一建設(株)安全祈願

五日 九州電力送配電(株)宮崎配電事業所・(株)九電送配サービス宮崎サービスセンター安全祈願

六日 宮崎刑務所第四支部夜勤安全祈願

七日 サムコテクシヴ(株)宮崎工場安全祈願

九日 (株)世界文化ホールディングス社運隆昌祈願

十日 (株)ニチワ・はますなFP総合事務所・ミクロエース(株)灯籠奉納奉告祭

十一月 十一日 宮崎県神社庁直階・権正階検定講習会開講奉告祭

二十八日 オーガニックファーム綾社内安全祈願

八月 一日 (株)宮崎太陽銀行社運隆昌祈願

(株)はまゆう安全祈願

KOTONARI宮崎(株)社運隆昌祈願

Inspire(株)For happiness宮崎設立奉告祭

三十一日 宮崎県神社庁正式参拝 ※神社庁総会

九月 八日 全国和牛登録協会宮崎県支部第十二回全国和牛能力共進会必勝祈願

十四日 ヤマト運輸(株)宮崎主管支店安全祈願

二十三日 鵬翔高等学校サッカー部必勝祈願

二十八日 宮崎神宮大祭祭実行委員会安全並成功祈願

十月 三日 (株)宮崎太陽銀行社運隆昌祈願

(株)フルタイムシステム設立奉告祭

四日 南国殖産(株)宮崎支店社運隆昌祈願

五日 合同会社TOPGOLF設立奉告祭

十月 七日 (有)佐土原サニタリー社運隆昌祈願

八日 小池愛子氏正式参拝

九日 宮崎神宮大祭祭実行委員会令和四年度「ミス・シャンシャ」安全祈願

宮崎商工会議所「神武さまのおすわけ」奉納奉告祭

二十二日 認定商品リユース・ドウ・プランタン「船塚の杜」

認定商品おかしの浩屋「ふわり 晴れの日」

宮崎青年会議所正式参拝

二十九日 (株)Amagami設立奉告祭

十一月 一日 (株)MTCコンサルタンツ設立奉告祭

七日 ミクロエース(株)・(株)マスジユウ灯籠奉納奉告祭

十三日 富士工業(株)正式参拝 ※灯籠奉納

十四日 日米ホールディングス(株)灯籠奉納奉告祭

十五日 (株)マスジユウ正式参拝 ※灯籠奉納

十七日 宮崎奈良クラシックカーツーリングヴィンテージカー出発式

二十八日 (株)ラック事業繁栄祈願

◆令和四年朔日参り◆

毎月一日は、早朝より家族連れや会社の方々等、月の中でも特にお参りが多い日です。

この日にはあはせて平成二十年十月より授与を開始した参拝餅。菓匠蒸気屋により、毎月異なったお餅を授与してゐますが、今では早朝より長蛇の列ができるほどの盛況ぶりとなりました。(写真)

なほ、年間を通して毎月欠かさず朔日参りをされた方には、特製の御札と証書を差し上げてゐます。

月の始めに先づ神武さまにお参りの上、日々の安寧をお祈りされては如何でせうか。



” 献詠短歌 ”

「宮崎神宮献詠短歌会」は、昭和十六年三月に発足しました。爾來八十年の長きに亘り、三十一文字に思ひを込めて献歌してきました。

■ 献詠募集 選者 小池洋子

ハガキに楷書で丁寧に一首と氏名、住所、電話番号を明記の上、宮崎神宮社務所までお送りください。

※毎月五日締切

※選考結果は毎月末に応募者宛にお送り致します。

■ 令和五年兼題

本年の献詠兼題を左記の通り定めましたので、お知らせ致します。毎月作歌して、日々の生活の中のささやかな出来事や人生の機微をお詠みください。

- 一月 暮 二月 餅
- 三月 風 四月 竹
- 五月 草 六月 虫
- 七月 雨 八月 魚
- 九月 盆 十月 秋分・彼岸
- 十一月 実 十二月 歩

■ 令和四年六月 兼題「音」

天 月次の御祭り告げる締め太鼓音に張りなし今日つゆ入りといふ

地 日南市 黒岩 昭彦

地 亡き夫の臥してゐし部屋のドアの音不意にひびけりすさま風らし

地 宮崎市 小松 京子

人 参拝者の足音近づくと授与所にて朱印を記すと筆先を整ふ

人 宮崎市 須田 明典

秀逸

搭乗を促すチャイムに非日常の喜びわきぬ母娘二人旅

綾 町 松元 由菜

在りし日の夫の声なり「ありがと、仲良せよ」と録音テープに

宮崎市 和田 洋子

佳作

空を切る音に得心バット置く一時間半の素振りを経て

文京区 遠藤 玲奈

東京への飛行機ならむ爆音の消えて雲間に小さくなりゆく

宮崎市 小池 洋子

やはらかく草木うるほす五月雨の静けき音を夜半に聞くかな

宮崎市 黒木 雅裕

■ 令和四年七月 兼題「船」

天 船に酔ふ妻賛同のはずもなしクルーズの旅をパンフで楽しむ

地 熊本市 松山 浩一

地 朝立ちの遍路の旅に見し小舟土佐鏡川の霧のあはひに

地 宮崎市 徳永さち子

人 船も見ぬ飛行機も見ぬいなか市老いて脳トレクイズに浸る

人 小林市 永友 チエ

秀逸

飛行船ツェッペリン号を見たこと記憶のはじめと父は語りき

豊島区 野田 香織

好きな所連れて行くよと帰省の娘青島が好き白き船見む

宮崎市 和田 洋子

佳作

運玉の飛び交ふ岩場のあちこちにワサワサうごめく船虫の見ゆ

日南市 黒岩 昭彦

新造船乗って行ききたし子のもとへ港に夫と見るだけの旅

宮崎市 鐘ヶ江和貴

笹船で親子の二片が競い合い歓声上げて舟と駆け行く

宮崎市 河野 公俊

■ 令和四年八月 兼題「星」

天 妻を乗せ飛び立つ日曜最終便フラッシュライト星に紛るる

地 宮崎市 永吉 寛行

地 はで派手のシャツの爺さま熟唱の「星影のワルツ」拍手あつむる

地 豊島区 野田 香織

人 コロナ禍の日課となるや星空に願ひはひとつ元の世なるを

人 宮崎市 秋廣やす子

秀逸

「乗りたいね」向かいのホームに停りたる「ななつ星」は濃き臍脂に光る

宮崎市 河野杏実果

臥す兄をまだ呼ばないでとこいねがう並びて光る星なる父母へ

宮崎市 松浦 伸子

佳作

サンリ座の赤き心臓アンタレス南の空に我がもの顔す

宮崎市 須田 明典

四年ぶり家族全員揃わむと八月の暦に星印つく

綾 町 松元 由菜

幼子の願いこめたる短冊に我もそつと寄せ書したり

南九州市 赤坂よし子

■令和四年九月 兼題「彼岸花」

天

開花待つ彼岸花のため沿道の草刈り奉仕に父といそしむ

宮崎市 黒木 雅裕

地

秋の陽を集めるように彼岸花咲く山道の道の明るさ

倉敷市 萩原 節子

人

小さき手を「毒があるぞ」と祖父止めし深緋色の彼岸花揺る

宮崎市 河野杏実果

秀逸

彼岸花の表紙の是非にいつまでも結論いはず 編集会議

豊島区 野田 香織

幼き日摘み取らんとせし彼岸花その緋の強さに我が手止めけり

宮崎市 永吉 寛行

佳作

庭くまに彼岸花咲きてよみがえる毒有る花と母は好まず

宮崎市 和田 洋子

彼岸花燃え滾る朱に交はりて真白を保つ一輪のあり

文京区 遠藤 玲奈

不気味にて好きとは思はぬ彼岸花ク口アゲハ寄るを急ぎ写しぬ

綾町 松元 由茉

■令和四年十月 兼題「コスモス・秋桜」

天

夫と共に再び来るは難からむ振り返りまた振り返る佐里の秋桜

宮崎市 黒木和貴子

地

夫のいうコスモス畑 連れてこか詠いあぐねているわたくしに

宮崎市 右松多恵子

人

花ことばも漢字もすぐに教へくるるスマホと遊ぶコスモス園に

宮崎市 鐘ヶ江和貴

秀逸

同伴でともに愛でたるコスモスにひとりになりしをふとつばやきぬ

宮崎市 徳永さち子

庭先のコスモス野分に倒れしもふたび立ちて陽に向かひたり

日南市 黒岩 昭彦

佳作

そを見れば流行りし唄の聴こえくる薄紅にゆるる秋桜の花

宮崎市 松浦 伸子

稲に麦豆も作らぬ家の田に揺らぐコスモス今花盛り

宮崎市 黒木ふさを

運転の免許取りたてうれしくてコスモス見んと小林へ向かう

宮崎市 八色 南

■令和四年十一月 兼題「公孫樹」

天

散り急ぐ黄金の公孫樹見に来よとなつかしき飢肥の友よりの電話

宮崎市 小松 京子

地

遠くに住む子に出す便り御社の色付く公孫樹ひとひら添ふる

宮崎市 黒木和貴子

人

好きだつた母の着物のいちやう柄掛蒲団となり三十年過ぐ

宮崎市 堀越 照代

秀逸

去川の大公孫樹のそのまわり手つなぎはかつたあの子等は今

宮崎市 右松多恵子

公園の高き公孫樹色付きて父の命日間近きを知る

宮崎市 鐘ヶ江和貴

佳作

黄一色イチョウ落葉に覆はるる小さき杜は人影もなく

宮崎市 須田 明典

掃除時間ほうきとちりとり投げ捨てて校庭のイチョウの落ち葉かけ合う

宮崎市 河野杏実果

舞ひ散るを見そびれて惜し一面に敷き詰められたる公孫樹のかがやき

文京区 遠藤 玲奈

宮崎県神社庁功績表彰

【表彰区分】

神道の昂揚に特に功績顕著な者

下北方町区会女性部（代表大野春代様）におかれましては、令和四年度宮崎県神社庁総会にて表彰の榮に浴されました。

長年に亘り、旧正月十四日夜間齋行の当宮撰社皇宮神社「破魔矢祭」の準備、片付等、特殊神事の維持継承に多大なる貢献をいただいてをり、当宮よりご推薦申し上げます。

心からお慶び申し上げますとともに、今後益々のご隆昌をご祈念申し上げます。

◆職員動向

令和四年七月から
令和四年十二月まで

【本庁辞令】

宮崎神宮権禰宜 串間 慶士
神職身分二級とする
(令和四年八月二十日)

◆五所稻荷神社新総代委嘱

小川 惇一
井手 茂貴
中武 久
小玉 恵司
(各通令和四年七月十五日)



紀元節復活運動時の紀元節祭 幟には「大願成就 紀元節復活」とある。

紀元節制定百五十年

明治天皇御製 橿原の宮のおきてにもとづきてわが日本の國をたもたむ

明治二年、刑法権判事津田眞一郎が、神武天皇御即位の年を紀元元年として、永世積算すべし、と建議したのが最初で、翌三年左院制度局小史横山由清又神武紀元を定むべき事を建議したのである。かくて、明治五年十一月十五日、太政官布告を以て、神武天皇御即位を以て紀元と定め、一月二十九日は天皇御即位日に相当するを以て、祝日と定むと、仰出されたのである。

次で翌六年一月四日、更に太政官布告を以て、人日（正月七日）、上巳（三月三日）、端午（五月五日）、七夕（七月七日）、重陽（九月九日）の五節を廃し、神武天皇御即位日と、之より先定めたる天長節との両日を祝日と定むと、仰出されたのである。更に同年三月七日、又太政官布告を以て、神武天皇即位日を、紀元節と称す、と仰せ出されたのである。

かくの如くして、この名称は定つたのであるが、太陽曆採用の結果二月十一日を以て紀元節と定められ、明治七年以降永く変わる事なく、今日に及んだのである。

（宮崎神宮旧社報『美あかし』

昭和十三年二月一日号より引用）

制定のこころ

慶応三年の「王政復古の大号令」には、「諸事神武創業ノ始ニ原キ」とあり、当時の政府の大方針は、建武中興や大化改新より更に遡って、神武創業に置かれました。

かかる中であつて、紀元節も制定され、その精神思潮は昭和十五年の國を挙げての紀元二千六百年奉祝事業へと繋がりましたが、直後にやむなく大東亜戦争に突入したのであります。

戦後、GHQは神武天皇意識の排除に力をそそぎ、国家の法制や神祇制度は大きな変革を余儀なくされましたが、その中であつて先人達は先づ紀元節復活に取り組み、昭和四十一年に建国記念の日として復活し現在に至ります。

制定百五十年の節目、改めて国史の原点を再確認し、我が國はもとより、世界が一家のやうに仲睦まじく平和になりますことを願つてやみません。

美あかし

Vol.160